

大麦管理情報 (第6号)

1 気象経過

- (1) 2月：平均気温は4.9℃（平年差+1.9℃）と高く、降水量は111.5mm（平年比65%）と少なかった。日照時間は86.1時間（平年比100%）と平年並みだった。
- (2) 3月上旬：平均気温は8.1℃（平年差+3.4℃）とかなり高く、降水量は54.0mm（平年比97%）と平年並みだった。日照時間は47.7時間（平年比128%）と多かった。

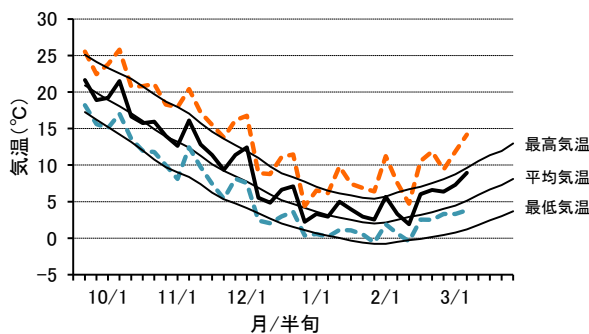


図1 気温の推移 (富山地方気象台)

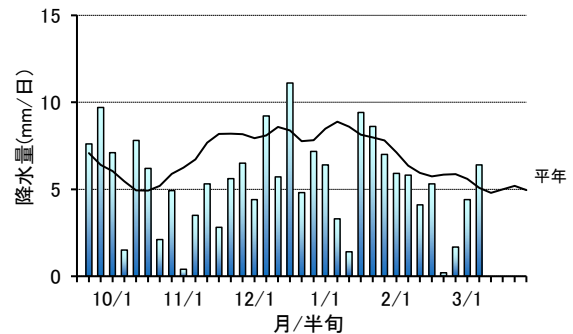


図2 降水量の推移 (富山地方気象台)

2 生育概況

- (1) 草丈は、平年よりかなり長く（平年差+7.7cm）、茎数は、平年よりかなり少なく（同-192本/m²）、葉色は、平年よりやや濃く（同+2.8）なっている。
- (2) 葉齢は、平年よりかなり進み（同+2.2葉）、幼穂長は、9.9mmで、平年よりかなり進んでいる（同+5.9mm）。
- (3) 葉齢を揃えて比較すると、草丈、茎数は平年並みとなっている。

表1 大麦生育観測ほ等調査結果 (3月15日)

(播種様式：ドリル)

	播種日 (月/日)	苗立数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)	幼穂長 (cm)
				(本/株)	(本/m ²)			
31年産	10/8	178	28.6	3.6	629	11.5	44.3	1.0
30年産	10/5	197	16.0	4.2	824	8.6	41.3	0.2
平年	10/6	176	20.9	4.7	821	9.3	41.5	0.4

注) 平年は21~30産の平均

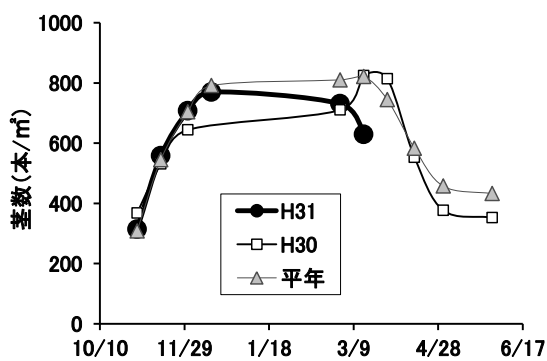


図3 茎数の推移

注) 平年は21~30年産の平均

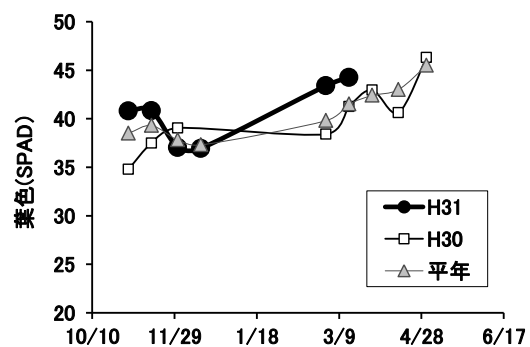


図4 葉色の推移

注) 平年は21~30年産の平均

表2 幼穂長に基づく生育予測

	幼穂長 (cm)	止葉展開期	出穂期	3/15以降の気温が平年より高く推移した場合の出穂期の予測		
H31産	1.0	4/2	4/13	平年差	+1℃	+2℃
	(0.6~1.6)	(3/30~4/6)	(4/10~17)	出穂予測	4/11 (4/8~15)	4/8 (4/6~12)
H30産	0.2	4/13 (4/7~19)	4/23 (4/18~27)			
近年	0.4	4/11	4/22			

注1) H31年産は、3月15日以降の気温が平年並に推移する場合の予測日 (H18年普及に移す技術)

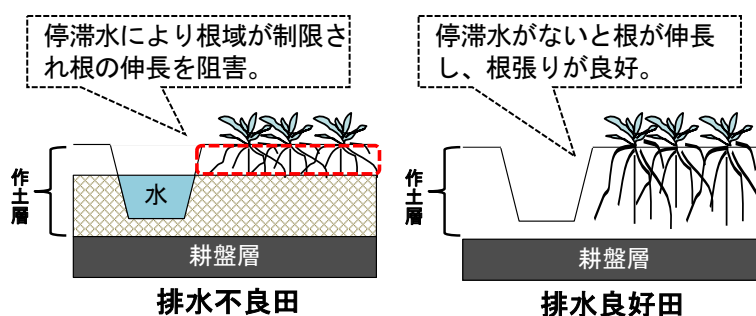
注2) () 内は予測日及び調査結果の幅を示す。

注3) 近年は21~30年産の平均

3 当面の技術対策

(1) 排水対策

- 出穂後の登熟条件を良好に保つため、雨水がほ場内に停滞しないよう、**排水溝の手直しを行うとともに、深く掘り下げた排水口への連結を徹底**し、**湿害を確実に回避**する。



(2) 止葉展開期の追肥

①肥効調節型基肥栽培

- 葉齢にあわせると、平年並みの葉色が確保されており、肥料成分の溶出が登熟後半まで続くため、**追肥は行わない**。

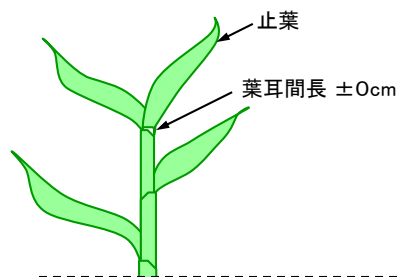
②分施肥栽培

- 生育がかなり進んでおり、3月末には止葉展開期を迎えると予測されるほ場では、早めに準備を整え、適期に施用する。
- 追肥時期が遅れると、硝子率が増加することから、**出穂11日前 (止葉展開期) を目安に、遅れずに施用**する。また、過剰に施用した場合、硝子率が増加することから、**生育量に応じた適正な施用量**とする。

表3 止葉展開期の生育と追肥量の目安

葉色 葉色板	予想穂数 (㎡当たり)	窒素追肥量 (kg/10a)
5未満	500本未満	2kg
	500本以上	1~2kg
5以上	500本未満	1kg
	500本以上	追肥しない

注) 葉色板の5はSPAD502で「45」



<止葉展開期>
葉耳間長 ± 0 cmの茎がほ場の40~50%に達した日